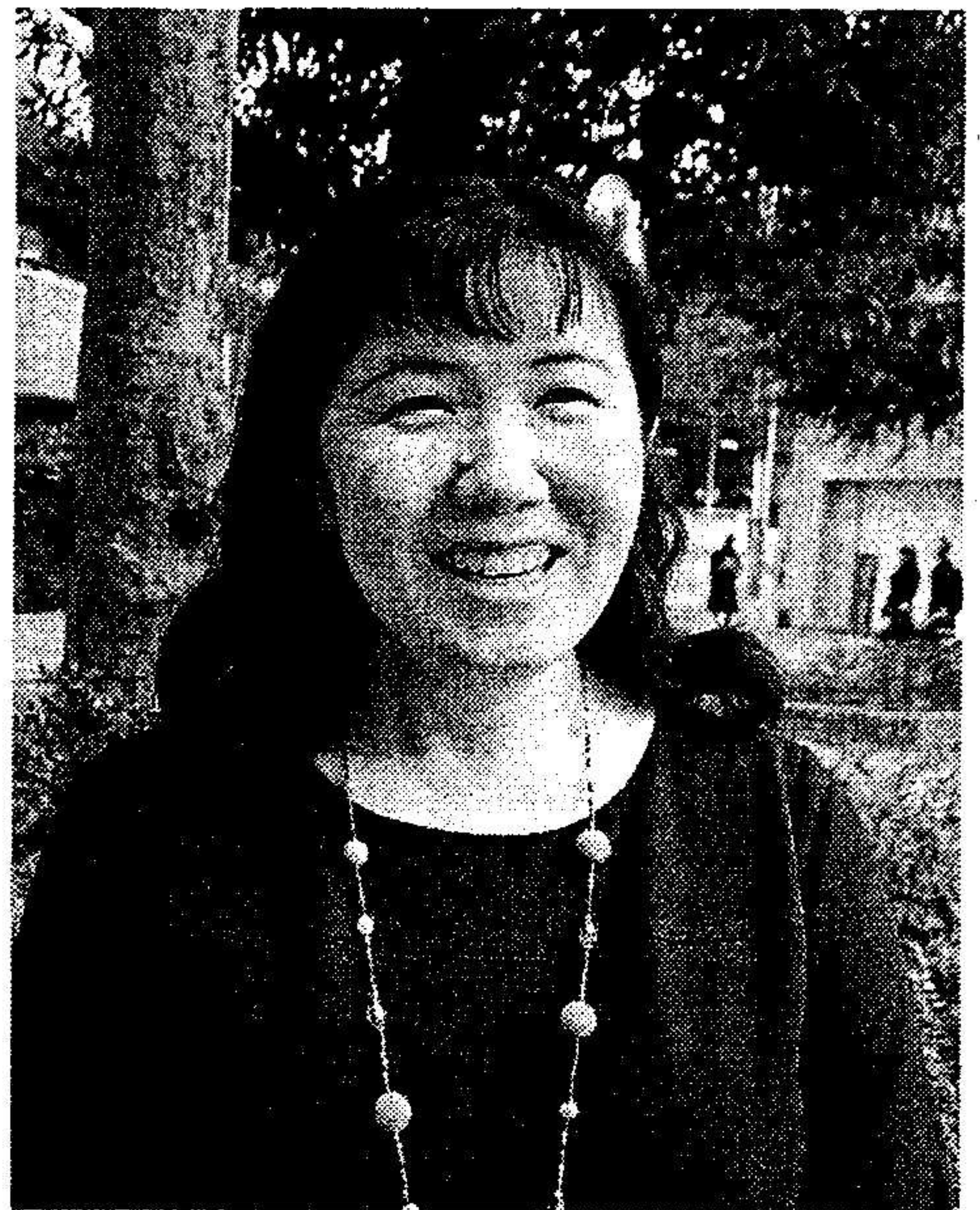


# 元氣 甲州人



なかじま・けいさん 都留市出身。著書に「中国人の誤解 日本人の誤解」「中国人エリートは日本人をこう見る」など。中国語のほか、韓国語、英語、広東語が堪能。東京都中野区在住。46歳。

フリージャーナリスト

中島 恵さん

## 日中の誤解ペンで解く

「何げなく暮らしている一般庶民の生の声が、実は社会全体の課題を語っているんです。中国を取材するジャーナリストが多い中、「市井の人」にこだわり、取材活動を続けている。一般人の目線に立つことで、その国の実相が見えてくると確信しているか

らだ。 テレビ番組の「シルクロード」を見て、中国にあこがれを抱いた。中国語を勉強するため、拓殖大外国語学部に入学。卒業後、日刊工業新聞社に入った。語学力を買われ、女性では初めて国際部に配属された。

それでもジャーナリストの道は捨てきれず、フリーのジャーナリストに。知人のついで、中国の社会事情、ビジネス事情を取材した記事を新聞や雑誌に寄稿した。

「中国人エリートは本音で日本をどう見ているのか」「インドネシア人の看護師の

実態は」。新聞やテレビの記者とは違う視点の記事は評判を呼んだ。今では新聞に連載記事を抱え、プレジデントやエコノミストなど経済誌を中心に精力的に執筆している。一般人を取材対象にしているだけに、粘り強く聞くことを心掛けています。取材相手の緊張がほぐれ、信頼関係が築けたとき、真実が見えてくる。本音に迫った取材から、戦後

来日する外資系企業のプロブや要人のインタビューを任される一方、「市井の人、普通の人の話を聞いてみたい」という思いが強くなった。「休職して中国に短期留学したい」と会社に申し出たが認められず、悩んだ末、退職。貯金をはたいて、香港中文大に2年間留学した。

留学を終えて帰国したが、中途採用の枠は狭かった。それでもジャーナリストの道は最悪と言われる日中関係の根底には日中双方の誤解がある、との結論に行き着いた。中国でも日本でもそれぞれ国のニュースがあふれているが、流れているのは政治や経済の大きなニュースだけ。「一般の人がどう考えているのか」が伝えられていない。だ

からこそ誤解が生まれる」と言う。 例えば、「中国人は日本のことを憎んでいる」と考えている日本人は少なくないが、日本が憎くて反日デモに参加している人ばかりではない。一方で、「日本にいる中国人はいじめられている」と本気で心配する中国人もいる。それぞれの誤解が不信を生み、隣国なのに親しくなれないという不幸を招いている。 中国を長年、取材してきた立場から、執筆活動を通して、双方の誤解を解くことができな

〈中山純〉